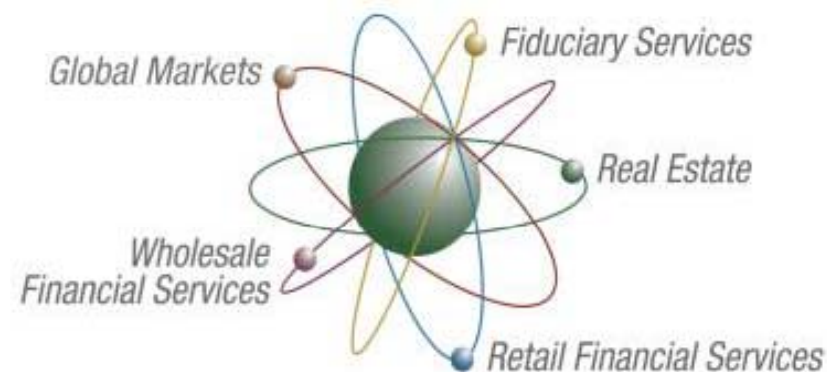




SUMITOMO  
TRUST

住友信託銀行

*The Sumitomo Trust  
and Banking Co., Ltd.*



住友信託銀行の  
マーケット資金事業について

2010年7月

本資料には、将来の業績に関する記述が含まれています。こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。将来の業績は、経営環境の変化などにより、目標対比異なる可能性があることにご留意ください。

なお、本資料に掲載されている情報は情報提供を目的とするものであり、有価証券の勧誘を目的とするものではありません。

# 目次

---

- ▶ 環境認識 …… 2
- ▶ 住信のマーケット資金事業とは …… 4
- ▶ 会計上の利益への影響について ……12
- ▶ (ご参考)リスク管理態勢 ……15

# 環境認識



# 環境認識

## 1. 金融仲介ニーズの変化

高度成長期との対比では、家計の余剰は不変も、資金は民間から政府・海外に

(1) 政府の不足：金融混乱による民間の損失を、政府が引受け

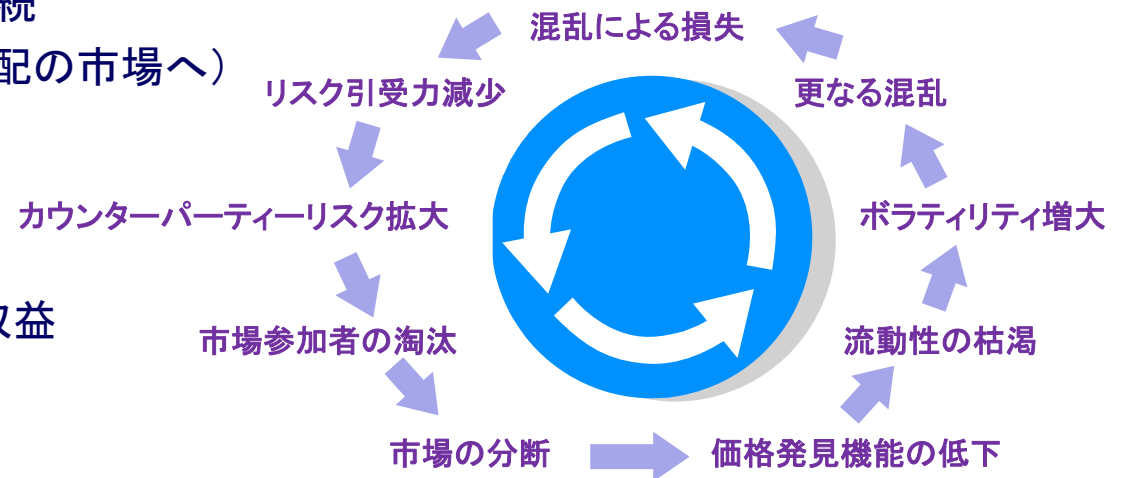
(2) 海外の増加：運用難の国内から、グローバル化で海外成長市場に資金が流出(一部還流)

企業貸付の低迷(ダンピング) + 海外市場からの還流 + 余剰資金運用難 = 国債大量保有 + 収益低迷 + 金利上昇リスク

## 2. 市場の破壊

破壊された市場において負の連鎖が継続

(効率的・無裁定状態から分断・需給支配の市場へ)



## 3. トレンドの転換

▶ 高リスク高リターン ⇒ 低リスク安定収益

▶ 財テク ⇒ 本業

▶ 金利低下 ⇒ 金利上昇

▶ リスク選好ニーズ ⇒ リスク回避ニーズ

▶ 自由化(市場至上主義) ⇒ 規制強化 / 金融規制(資本・流動性)強化、IFRS導入



# 住信のマーケット資金事業とは



SUMITOMO  
TRUST

住友信託銀行

## マーケット資金事業のミッション

- ▶ 第一の柱は、当社バランスシート全体の価値を維持・向上させる「財務機能」
- ▶ 第二の柱は、顧客と市場、もしくは市場と市場を仲介する「市場仲介機能」

### マーケット資金事業のミッションと業務内容

<u>財務機能</u> : 当社バランスシート全体の価値を維持・向上	<u>(Ⅰ) 財務マネージ</u> : 全社バランスシートに内在する市場リスク(金利リスク・非金利リスク)の的確なマネージ
<u>市場仲介機能</u> : 顧客と市場、もしくは市場と市場を仲介	<u>(Ⅱ) 対顧サービス</u> : 預金・貸出、デリバティブ、為替取引などのマーケットメイクおよびマーケティング
	<u>(Ⅲ) 投資</u> : 市場の歪みに着目した自己勘定投資



SUMITOMO  
TRUST

住友信託銀行

# マーケット資金事業の業務内容(Ⅰ)財務マネージ

- ▶ バランスシートに内在する市場リスク(金利リスク・非金利リスク)を的確にマネージし、全社バランスシートの価値を維持・向上させることを目的とする
- ▶ 非金利リスクのマネージにおいては、リスクカテゴリー間の相関に着目し、内外国債や株価インデックス等、流動性の高い投資手段により最も効率的・効果的な戦略を追求

## 主な機能・役割

### (1)市場リスク(金利リスク)マネージ

- ① 預金・貸出に係る金利リスクマネージ(収益管理上は「対顧客サービス」に計上)
- ② 預金スプレッドが内包する金利リスクマネージ(流動預金など)

### (2)市場リスク(非金利リスク)マネージ

- ① 保有株式に係る株価リスク
- ② 海外クレジット投資有価証券を中心とするクレジットリスク

### (3)流動性リスクマネージ

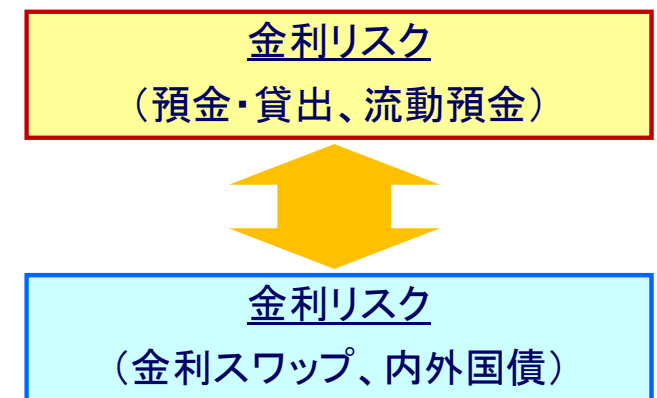
- ① 全通貨にわたる効率的な流動性リスクマネージによる、安定的な調達構造の確保と調達コスト低減

## 主なリスクコントロール手段

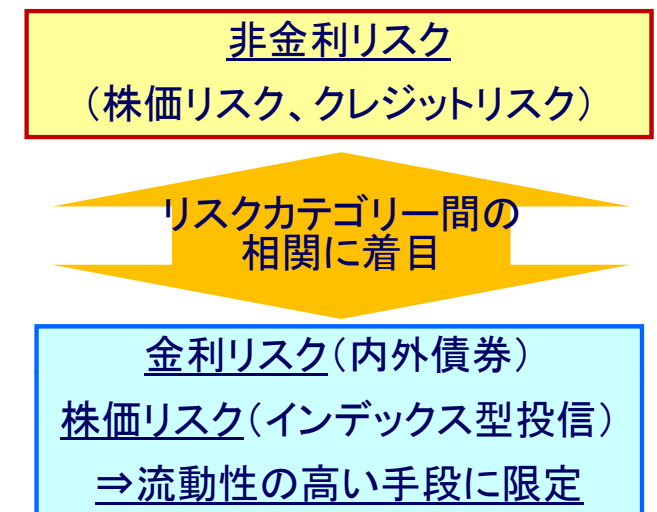
(注)市場リスクマネージに係るもの

- ① 金利:内外国債、金利スワップ等
  - ② 株価:株価インデックス型投信等
- (注)原則として為替リスクは取らない

(図1)金利リスクマネージ



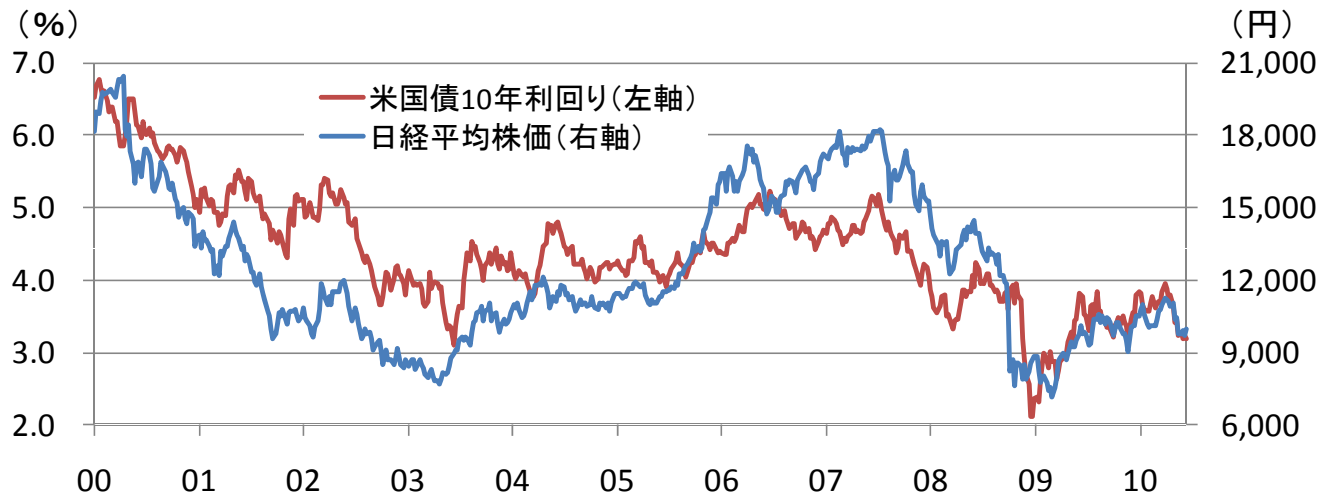
(図2)非金利リスクマネージ



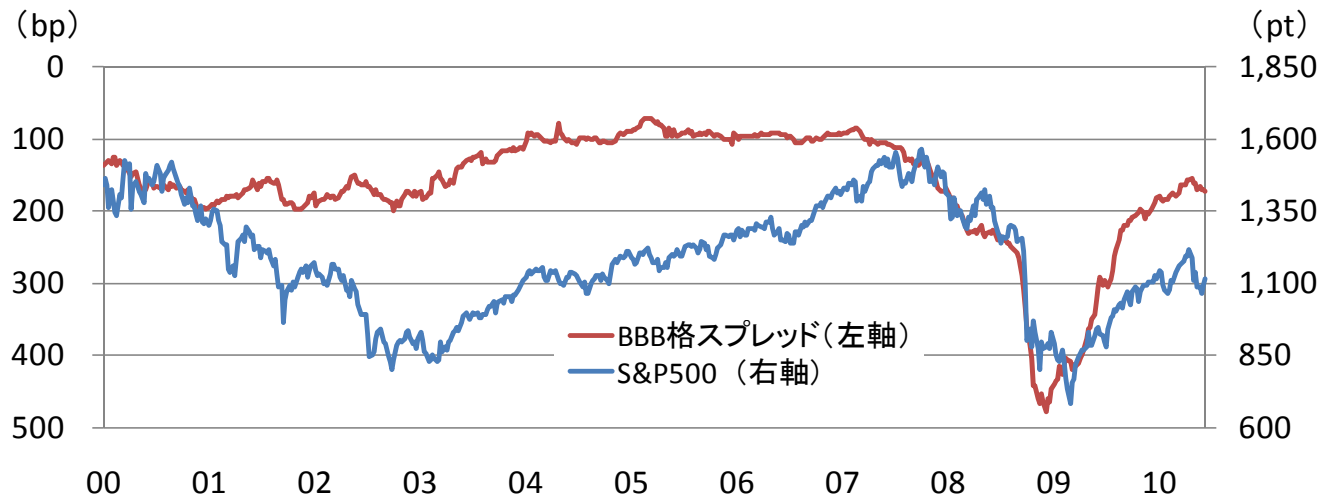


# (ご参考①) 金利・株価、信用・株価の相関

## (グラフ①) 株価と長期金利の推移

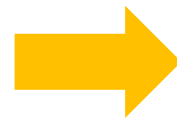


## グラフ② 株価とクレジットスプレッドの推移



# (ご参考②)円貨・外貨B/S(2010年3月末基準)

(図①)円貨B/S



(ご参考)貸出・預金の金利属性

- 1年以上の固定金利貸出:2.5兆円
- 1年以上の固定金利定期:6.9兆円

(図②)外貨B/S



## マーケット資金事業の業務内容(Ⅱ)対顧サービス

- ▶ 預金・貸出、デリバティブ、為替取引などのマーケットメイクおよびマーケティングを通じ、顧客の財務ニーズ・運用ニーズに応えることを目的とする  
⇒顧客取引のフロー拡大に伴い、収益は安定的に成長、管理ベース収益は年間300億円に迫る水準に
- ▶ 特に、顧客のバランスシートに内包されるリスクに着目した運用商品の開発、投資営業は成長分野  
⇒2009年度における仕組預金の販売実績:約3,200億円

### 主な機能・役割

#### (1) マーケットメイク(値決め・リスクマネージ)

- ① 預金・貸出の固定金利部分に対するマーケットメイク  
(参考)預金の49%、貸出の21%が1年以上の固定金利
- ② デリバティブ、為替取引に係るマーケットメイク

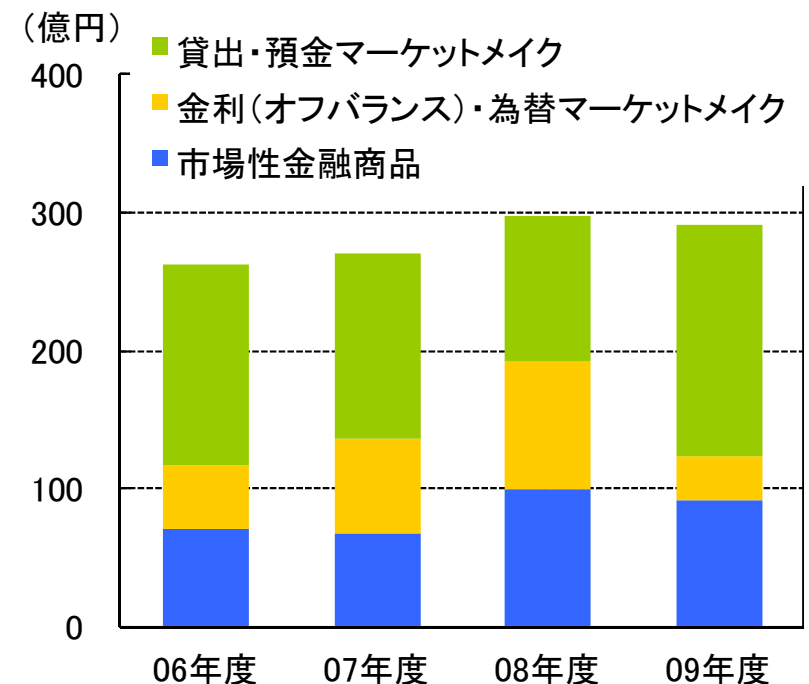
#### (2) マーケティング

- ① デリバティブ、為替、仕組預金等の提案・販売
- ② 金融商品開発(信託機能を活用した運用商品を含む)

### 主な提供商品・サービス

- ① 金利・為替関連デリバティブ
- ② 外貨預金(個人・法人向け)
- ③ 仕組預金(為替・株価参照預金等)
- ④ 上記商品・リスクに関するコンサルティング

### 【対顧サービスの業績推移】



# マーケット資金事業の業務内容(Ⅲ)投資

- ▶ 市場の歪みに着目した自己勘定投資を中心に、投資対象・投資主体・投資期間の分散によって収益機会の多様化・拡大を図ることを目的とする
- ▶ 2009年度以降、非線形リスクに係るリスク管理体制を強化、配分リスク量を考慮すれば、100億円超の下振れリスクは限定的

## 主な機能・役割

- ① 市場の歪みに着目し、正常化のプロセスを捉えて収益獲得を図ること  
⇒投資対象(対象商品・投資手法)・投資主体・投資期間の分散により収益機会を多様化、収益の安定化、最大化を図る
- ② 自己勘定投資で蓄積されたノウハウを活用し、投資家向け商品(信託機能を活用した商品を含む)開発につなげる

## 主な投資手段

- ① 金利:内外国債、金利スワップ
- ② 株価:株価インデックス
- ③ 為替:先物為替
- ④ その他:投資信託 等

【新たな収益機会の創出の一例  
(L-Tスプレッドに着目した投資)】



【投資のリスク量(VaR)の状況】

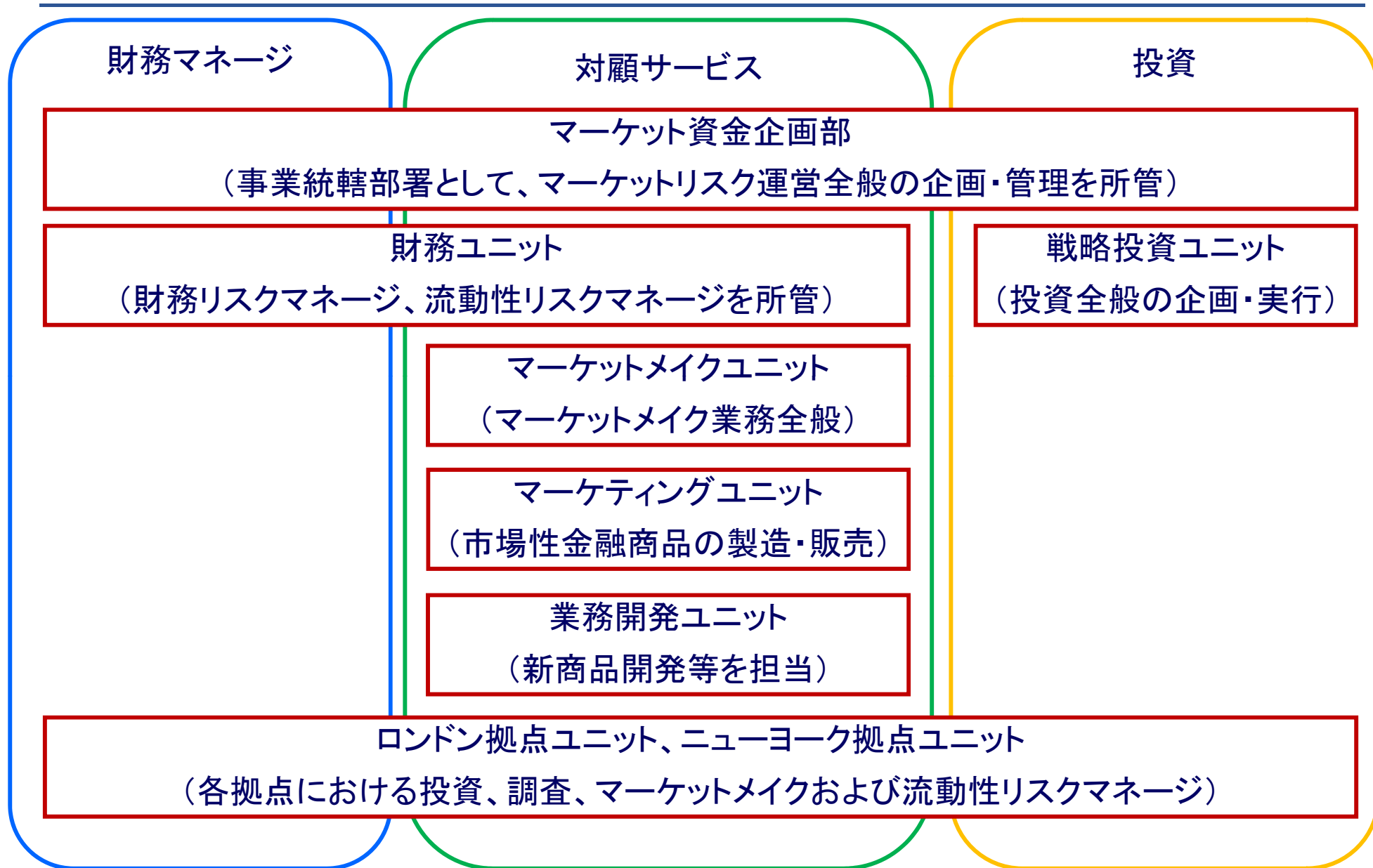
(億円)	バンキング勘定	
		うち投資
10/3末実績	755	116
最大値	1,478	289
最小値	716	116
平均値	1,093	213

(計算期間:09/4~10/3)

(注)VaR算定方法については、17ページをご参照下さい。



## (ご参考) マーケット資金事業の組織・体制



SUMITOMO  
TRUST

住友信託銀行

# 会計上の利益への影響について



## 各種オペレーションによる収益と経理科目の関係

	財務マネージ	対顧サービス	投資
資金利益	○ (債券利息収支) (スワップ収支) (投信償還益)	○ (債券利息収支) (スワップ収支) 等	○ (債券利息収支) (スワップ収支) 等
特定取引利益	—	○	○
外国為替売買損益	—	○	○
国債等債券損益	○ (債券売買損益) (投信売却益)	○ (債券売買損益)	○ (債券売買損益)
金融派生商品損益	△	○	○
株式等関係損益	—	—	—
株式関連派生商品損益	—	—	○



SUMITOMO  
TRUST

住友信託銀行

## (ご参考)「債券損益除き実質業務純益」

- ▶ 「国債等債券損益」には、「特定取引利益」や「金融派生商品損益」に計上される取引のヘッジ目的の取引による損益が含まれる
- ▶ 「債券損益除き実質業務純益」は2009年度約1,500億円、2008年度は実質ベース約1,000億円 → 「投資」における一過性の損失計上を主因とした下振れ(当該要因除きでは約1,350億円)

### 「債券損益除き実質業務純益」

- ① 2009年度の「債券損益除き実質業務純益」は、約1,500億円
- ② 2008年度は、特定取引勘定へのヘッジに対応する債券損益175億円(管理ベース)調整後の実質ベースでは、約1,000億円



「投資」における一過性の損失計上(金利オプション等)を除けば、約1,350億円



2009年度以降の「投資」リスク管理体制強化、配分リスク量を踏まえれば、△100億円超の下振れリスクは極めて限定的

### 【債券損益除き実質業務純益<単体>】

(億円)	2008年度	2009年度	増減
	実績	実績	
実質業務純益	2,010	1,754	△ 255
うち国債等債券損益	1,194	244	△ 949
うち特定取引勘定ヘッジ分	175	-	△ 175
うち特定取引利益	△ 520	156	677
債券損益除き実質業務純益	816	1,509	693
(ヘッジ分調整後=実質ベース)	(991)	(1,509)	(518)

### 【管理ベース収益<単体・粗利益>】

マーケット資金事業	1,427	779	△ 648
財務マネージ	1,497	368	△ 1,129
対顧サービス	296	290	△ 6
投資	△ 368	120	488





## (ご参考)リスク管理態勢

# リスク管理態勢①(リスク管理体制)

## 取締役会

- ▶ 市場リスク、流動性リスクに関する重要事項としてALM基本計画およびリスク管理計画を承認・決議

## 経営会議

- ▶ ALM基本計画およびリスク管理計画の審議・決定、市場リスク管理の状況に関する報告などを踏まえた牽制機能の発揮

## ALM審議会

- ▶ 全社的な観点による資産・負債の総合的なリスク運営・管理に関するALM基本計画および市場リスク、流動性リスクに係るリスク管理計画を策定。月次のALM審議会において、連結ベースの市場リスク、流動性リスクのコントロールによる資産・負債構成の健全化と収益の安定化を図る

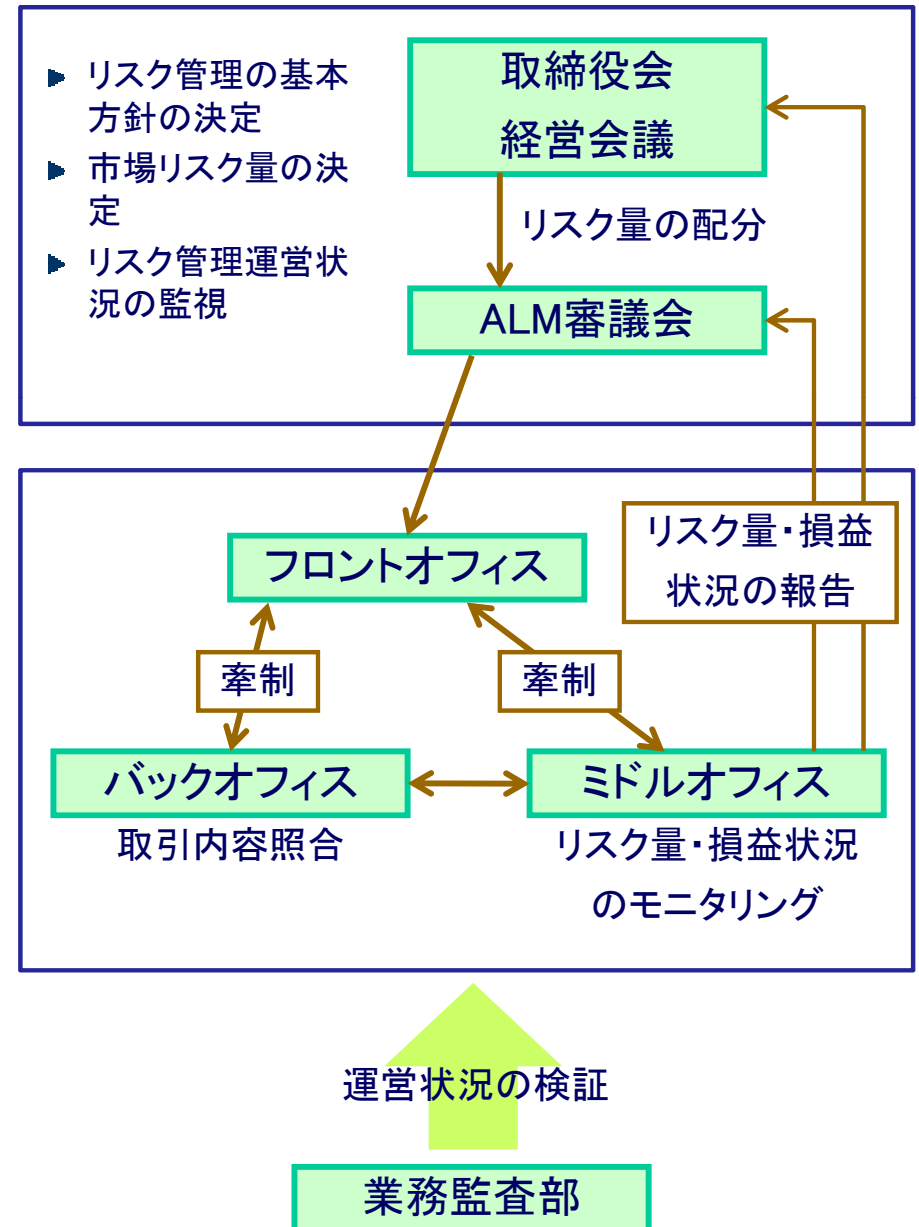
## リスク統括部

- ▶ 独立したミドルオフィスとして、市場リスク、流動性リスク管理のモニタリングを行い、リスクリミット(リスク限度)およびロスリミット(損失限度)の遵守状況を確認。確認状況は、定期的にALM審議会や取締役会に報告

## 業務監査部

- ▶ リスク管理態勢の適切性・有効性に係る内部監査を実施

## 【市場リスク、流動性リスクの管理体制】



## リスク管理態勢②(リスク管理手法)

### 市場リスク

- ▶ 市場リスクの把握にはValue at Risk(VaR)を使用。VaR計測は分散・共分散法を基本に、オプション取引などの非線形リスクにはヒストリカル・シミュレーション法を併用。なお、金利・為替・株価等のリスク・カテゴリー間の相関は考慮せず
- ▶ 内部モデルの信頼性・有効性を担保するためのバックテストを実施
- ▶ また、統計的な予想を超える変動を想定し、各種シナリオを用いたストレス・テストも実施  
(ご参考)VaR計測基準

(バンキング勘定)信頼区間:片側99%、保有期間:21営業日、観測期間260営業日

(トレーディング勘定)信頼区間:片側99%、保有期間:1営業日、観測期間260営業日

### 流動性リスク(資金繰りリスク)

- ▶ 日々の資金ギャップ額(要調達額)に上限を設定すると共に、運用予定額を含めた将来の資金ギャップが換金性のある資産や市場での資金調達によりカバー可能かモニタリング
- ▶ 資金流動性の状況に応じ、「平常時」「懸念時」「危機時」に区分した管理に加え、平時より「懸念時」「危機時」の流動性コンティンジェンシープラン(緊急時対応計画)を策定

### 流動性リスク(市場流動性リスク)

- ▶ 市場規模に基づき妥当な価格で取引可能な水準を、引き受け可能な市場リスク量とする

### 信用リスク

- ▶ 市場性取引実行時の信用リスクは、取引先ごとのクレジットライン(取引限度額)を設定して管理



SUMITOMO  
TRUST

住友信託銀行